第３学年　社会科　学習指導案

１．小単元名『市の様子の移り変わり』　～雪とジャガイモの町「倶知安」～
（教科書：『小学社会３』p. 140～155／学習指導要領：内容（４））

２．小単元の目標
時代ごとのまちや人々の生活の様子を調べ，変化を考え表現することができるようにする。

３．小単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・倶知安町の様子や人々の生活の様子の移り変わりについて，聞き取り調査や資料で調べたりして理解している。 ・調べたことを年表などにまとめ，倶知安町や人々の生活の様子の変化について理解している。	・身のまわりの道具，交通や公共施設，土地利用や人口などの時期による違いに着目して，問いを見いだし，倶知安町の様子や人々の生活について考え表現している。 ・身のまわりの道具，交通や公共施設，土地利用や人口の今と昔を比較したり，相互を関連づけたりして，倶知安町の様子や人々の生活の変化を考え表現している。	・倶知安町の様子の移り変わりについて，予想や学習計画を立てたり，学習をふり返ったりして，主体的に学習問題を追究し，解決しようとしている。 ・学習したことをもとに，これからの倶知安町の発展について考えようとしている。

４．指導にあたって
（１）教材について
本小単元の事例地である北海道倶知安（くっちゃん）町は，冬の寒さや雪を生かしたジャガイモ栽培，スキーなどのウィンタースポーツが盛んである。「いつから」ジャガイモ栽培やスキーが盛んになったのか，「なぜ」盛んになったのか，それによりまちに「どのような」変化が起きたのかを調べていくなかで，住む人々の願いや思いが基になって時代ごとにまちの様子や人々の生活の様子が変化していくことについて考えを深めることができる。また，租税の働きや国際化などについても触れ，まちづくりを多面的に捉えさせることもできる教材である。

（２）指導上の工夫・留意点
小単元全体の構成としては，情報収集からまとめ考察のセットを繰り返すことで，見通しをもって学習に取り組めるようにした。単元導入時は，身近な町のキャラクターからまちのよさを捉え，学習問題につなげられるようにした。単元前半は実物に触れることで実感を伴った学習ができるよう，様々な道具を中心に据えた。また，単元後半は町全体の変化を捉え

る学習を行った。これは，単元前半に学んだことを基盤として，思考・判断・表現することができると考えたためである。単元末には，これからのまちの発展を考える「構想」と単元の学習問題の解決の場面を設け，単元全体で学んだことを生かしながら，まちの今までとこれからを考える姿を期待した。

５．小単元の指導（総時数１０時間）

時数	ねらい	○学習活動　・内容	◎使う資料　◇留意点　◆評価
1（つかむ）	いつから雪とジャガイモが倶知安町のよさになっているのかについて関心をもち，移り変わりを調べることで問題解決しようとする意欲を高める。	○倶知安町のよさについて考える。 ・ジャガイモ　・スキー ・パウダースノー ・羊蹄山　など ○いつから雪とジャガイモが倶知安町のよさになっているのかという疑問を解決する学習問題を立てる。 学習問題 雪とジャガイモの町「倶知安町」のうつりかわりを調べよう。	◎じゃが太くんの絵 ◇「なぜ」「いつから」といった学習問題にかかわる発言をつなぐ。 ◇調べたいという意欲を促す。 ◆自分たちの住むまちのよさについて考えている。 （思・判・表／発言） ◆倶知安町の様子の変化を調べる学習問題について予想し，学習の見通しを立てて主体的に追究しようとしている。 （態／発言，ノート）
2（調べる）	写真資料の読み取りや体験活動を通して，昔と今の道具を比較し，変化の様子を理解することができる。	○「昔の道具」について調べる。 ・ジャガイモにかかわる道具 ・スキーや除雪にかかわる道具 ・生活にかかわる道具 ・昔の除雪道具の体験 ○昔と今の道具を比べてみる。 ・今は昔より便利になっているようだ。	◎風土館展示物のスキーの写真 ◎風土館展示物の昔の除雪道具 ◇道具と触れ合う体験を大事にし，現在の道具との違いに気づけるようにする。 ◆写真資料の読み取りや道具にふれる体験を通して，昔と今の道具を比較している。 （思・判・表／発言，ノート）

3 （まとめる・考える）	農業・生活・除雪・スキーにかかわる道具の移り変わりついて年表に整理することでき，変遷の理由について考えることができる。	○年表に，道具についての事項を位置づけ，今の道具と比べてみる。 ○道具が変わってきた理由について考え，話し合う。 ・より生活がべんりになるように，道具は時代によって変わってきている。	◇農業・生活・除雪・スキーの観点から整理するようにする。 ◆道具と人々の暮らしの変化について年表にまとめ，その移り変わりと理由について表現している。（思・判・表／発言，ノート）
4 （調べる）	畑や山，川など地形に着目し，地図資料の読み取りを通して，昔と今の倶知安町を比較することができる。	○昔の地図３枚から読み取ったことを発表する。 ・畑の様子：明治のころは笹やぶ。 ・山（スキー場）の様子：リフトができたのは平成の時代からのようだ。 ○まちの中にある畑，山，川の昔の様子と今の様子を比べる。 ・昭和 35 年ごろから，今のような町の様子になっている。	◎地図資料（明治 29・大正 6・昭和 35・平成 3・平成 23 年） ◇読み取り内容を板書に位置づける。 ◇読み取りから出る疑問は次時以降につなげる。 ◇川の形の変化についてふれる。 ◆地形に着目して，地図の今と昔を比較して，わかったことをまとめている。（知・技／ノート）
5 （まとめる・考える）	土地の使われ方の変化について理解し，なぜ町の地形が変わってきたのかについて考えられる。	○畑について考える：ジャガイモづくりはなぜ倶知安町で広がったのだろう。 ・ジャガイモづくりが広がったのには，「寒さ」と「雪」が関係しているみたいだ。 ○山（スキー場）について考える：スキー場が作られたのはいつごろだろう。 ＊次時につなげる	◇前時の疑問をもとに学習を進める。 ◇考えたことを板書に位置づける。 ◇米とジャガイモの収穫時期に着目し，ジャガイモづくりが広がった理由には，雪・寒さ・羊蹄山・地質が関連していることに気づかせたい。 ◆地図資料の読み取りを通して気がついたことについて，それがなぜなのかを考え，表現している。（思・判・表／発言，ノート）

6 （考える）	公共施設の写真や公共施設と税に関する資料から，倶知安町の取組や思いについて理解できる。	○なぜスキー場や体育館などがつくられたのか考える：つくられる前はどのような様子だったのだろう。 ○誰のためにつくられたものなのか考える：なぜ小学生は無料で使用できるのだろう。 ・公共施設は，税金によって町民のためにつくられている。 ○いくつもスキー場ができ，人の移動で困ることはなかったのか考える。 ＊次時につなげる	◎写真資料（昭和 39 年の旭ヶ丘スキー場・平成 6 年の総合体育館・昭和 56 年の町営プール） ◇公共施設のことは既習であるため，ここでは作られた背景や租税の働きについて学べるようにする。 ◆資料を読み取り，公共施設の役割や税の働きについてわかったことをまとめている。 （知・技／ノート）
7 （調べる）	年代のちがう写真を比べたり，資料を読み取ったりすることを通して，駅前通りや交通の変化を捉える。	○町の道路や鉄道は，どのようにかわってきているのか捉える。 ・国道５号線の様子，サンモリッツ大橋 ・新幹線 ・人々の願いや思いによって，交通もかわってきていて，これからもかわっていく。	◎写真資料（明治 37 年の倶知安駅・明治時代の尻別川渡船・昭和 30 年代ごろの駅前通り） ◇川の渡船も交通の大切な一つの手段であったことにふれる。 ◇ヒラフ地区に向かう道路にサンモリッツ大橋ができた背景として，尻別川の形の変化などと関連することに気づかせたい。 ◆写真の比較や資料との関連づけを通して，交通の変化についてわかったことをまとめている。 （知・技／ノート）

8 （まとめる・考える）	土地利用・公共施設・交通について学んだことを年表に整理し，まちの様子のうつりかわりの理由について考え，表現することができる。	○年表に，土地利用，公共施設，交通についての事項を位置づけ，今の様子と比べてみる。 ○まちの様子が変わってきた理由について考え，話し合う。 ・土地利用，公共施設や交通も，まちや生活をよりよくしたいという人々の願いや思いのもと，変わっている。	◇これまでの学習でわかったことを，土地利用・公共施設・交通にかかわることに整理し，年表に位置づけられるようにする。 ◆土地利用，公共施設，交通にかかわることの変化について年表にまとめ，その移り変わりについて表現している。 （思・判・表／ノート）
9 （考える・構想）	人口推移について，グラフ資料を読み取り，大まかな変化を捉える。また，役場の取組や外国人とのかかわりをもとに，これからどのようなまちづくりをしていくべきか，自分の考えを持ち，表現することができる。	○倶知安町の人やまちはこれからどうなっていくのだろうか。 ・倶知安町の人口は減っている。 ・外国人は増えている。 ・外国人をふくめて，住む人みんながよいと思えるまちづくりをすることが大切。	◎棒グラフ（日本全体の人口・北海道の人口・倶知安町の人口） ◎くっちゃん型住宅についての資料 ◇棒グラフの資料からは大まかな人口の変化の様子を読み取らせるようにする。 ◇既習の提示物を活用する。 ◆人口のグラフや，役場の取り組みに関する資料を読み取り，わかったことをまとめている。 （知・技／ノート） ◆倶知安町がこれからどのようになっていくかについて，自分の考えをもち，表現している。 （思・判・表／発言，ノート）

10（まとめる・振り返る）	倶知安町や人々の生活の様子の移り変わりについてわかったことを整理し，まちのよさについて考え，表現できる。	○年表に，人口の移り変わりについての事項を位置づける。 ○道具やくらしの移り変わりを年表にまとめると，どんなことがわかるだろうか。 ・倶知安町は寒さや雪を生かしながら，まちづくりを進めてきた。 ・昔から人々の願いや工夫があったから，今がある。 ・今は昔からつながっている。 ・これから先も，願いや工夫で町はかわっていく。	◇人口の移り変わりにかかわる事項を年表に位置づける。 ◇雪とジャガイモに共通することを考えさせる。 ◇単元の学習問題に対するまとめを位置づける。 ◆人口の変化について年表にまとめ，その移り変わりについて表現している。 （思・判・表／ノート） ◆生活の道具，交通，土地利用，人口，公共施設の移り変わりについての追究をふり返り，これからの学習に生かそうとしている。（態／発言，ノート）

６．本時の指導（第９時）

（１）本時のねらい

倶知安町の発展について，大切だと思うことを考え，表現することができる。

（２）本時の展開

	○学習活動　T：発問　C：児童の反応	◇留意点　◆評価
問いを生む場	○前時の振り返りを行う。 ○グラフの読み取りを行う。 《提示資料①》日本全体の人口 棒グラフ 《提示資料②》北海道の人口 棒グラフ 《提示資料③》倶知安町の人口 棒グラフ ○グラフからわかったこと，考えたことを発表する。 T：昭和 25 年から見ていくと，日本の人口はどうなっていますか。 C：40 年から 60 年にかけて一気に増えている。 C：一度たくさん増えた後，減っている。 T：倶知安町の人口は？ C：減っている。 T：実は倶知安町に住んでいる外国の人を合わせるとこのようなグラフになります。 C:合わせても人口は少なく見える。 C:平成 29 年は，外国の人の数は増えている。 本時の問い 倶知安町の人やまちはこれからどうなっていくのだろう？	◇大まかな変化の様子を捉えられるようにする。 ◇資料①と②はテンポよく進める。 ◇資料③は，子どもと確認しながら進め，既習と関連させるために，前時までの掲示物を活用する。 ◇日本人の人口変化を確認後，外国人の数も合わせる。
様々な考えをつなぐ場	○考えたことをノートに書き，発表する。 （自力→小集団（隣どうし３人程度）→全体） T:発表してください。 C:ジャガイモが有名だけど，そういう有名がなくなっちゃって，倶知安の町の人数がもっと減ると思う。 C:これからは，日本人よりも外国の人が増えていくと思う。 C:町がよくなれば，日本人も外国の人も増えると思う。 C:外国語の看板ができると思う。 C:大きな建物や大きなホテルが増えると思う。 《提示資料④》くっちゃん型住宅についての資料 T:なぜ町がこのような取り組みをするのでしょうか。 C:倶知安町に住んでほしいから。	◇外国人，日本人，町の視点に分類した板書をする。 ◇外国人向けに変化してきた看板や取り組みを紹介する。 ◇テンポよく，すぐに町が支援している金額を紹介。

見方や考え方を確かにする場	○本時の学習をまとめる。 T:これからの倶知安町は，どんな町になるべきですか。 C:人が多くなるべき。日本人も外国の人も。 C:誰でも住みやすい町にするべき。 T:町はどのような取り組みをしていますか。 C:外国語の看板を設置したり，長く住んでいる人にお金を支援したりしていた。 これからの倶知安町は，外国人もふくめて，住む人みんながよいと思えるまちづくりをすることが大切。 ○自分にできること，自分がやってみたいことを書く。 T:これまで勉強してきたなかで，みんなが，これからの倶知安町のためにできそうなことは何かないでしょうか。将来できそうなことでもよいです。 C:倶知安町のことを知ってもらう。 C:子ども議会に行って考えや思いを伝える。 C:外国の人向けのお店をひらく。	◇観光客と居住者が混在すると想定されるが，観光客も倶知安町の発展に欠かすことができないものと考える。 ◆人口のグラフや，役場の取り組みに関する資料を読み取り，わかったことをまとめている。 （知・技／ノート） ◆倶知安町がこれからどのようになっていくかについて，自分の考えをもち，表現している。 （思・判・表／発言，ノート）